



特集 **ありのママで** ～不安のない子育て環境を目指して～

人と人・人と地域をつなぐ

母子の健康支援を担当する上田紀子保健師に、妊娠から育児までの市の支援体制、そして、今後の市の支援はどうあるべきかを聞きました。

母子保健
コーディネーター

健康支援室
上田 紀子(保健師)

妊娠中から必要とする 支援を行き届かせたい

全ての妊婦と乳幼児の
保護者に寄り添う支援へ

これまでの市の子育てに関する相談・支援は、心配を抱えていることが分かった親子を対象とするものが中心でした。しかし、妊婦アンケートの結果から、不安を抱く妊婦が多くなっていることが分かりました。そこで、妊婦からの要望が多かった、助産師による母乳育児や産前産後の体調を相談できる「安心育児・おっぱい教室」や、産後不安な時期

の全てのママに保健師や助産師から電話を掛ける「生後2週間目全戸電話相談」を始めました。

搾乳のことを聞こうと「安心育児・おっぱい教室」に参加した長末麻衣子さん(左上写真中央)は、「子どもが母乳をしつかり飲んでいくかどうか心配だったとき、市から電話があり『おしっこが出ていたら大丈夫』と言われ、安心できた」と、「生後2週間目全戸電話相談」が不安解消の手助けになったと話してくれました。



人形を使って沐浴体験をする「となりのまごちゃん応援教室」の参加者

地域の温かい見守り中での支援

この支援体制で欠かせないのが、身近な地域の中での見守りです。特に知識や経験豊富なシニア世代が子育てで支援に参加することが期待されています。8月にはそのまごちゃん応援教室を開催。もうすぐ孫が産まれる人や、地域の子育て支援に関心のある人などが参加しました。

また、直接的な支援だけでなく、地域の中でのさりげない声掛けや無理のない応援が、子育てを負担に思ったり、不安を抱いたりする親に心のゆとりをもたらしてくれます。

これまでは、子育て不安の強い家庭を保健師や助産師が直接支援してきました。これからは、保健師や助産師の支援とともに、まちの保健室や主任児童委員、子育てボランティアの皆さんなどの温かい見守りの中で、家庭の子育て力を引き出せたらと思います。

人と人、人と地域をつなぐことで、切れ目のない支援につなげ、不安のない子育て環境を目指します。



助産師による「安心育児・おっぱい教室」

日時 11月21日、12月19日午前10時～
11月28日、12月12日・26日午後1時30分～
※ 全て金曜日。母子健康手帳発行教室同時開催
場所 保健センター(朝日町)
持ち物 バスタオル1枚、フェイスタオル2枚、
母子健康手帳

こうした産前産後の

支援強化と、私たち市の保健師や助産師が母子保健コーディネーターとして中心になり、まちの保健室や主任児童委員、地域と連携していくことで、全ての妊婦、乳幼児の保護者に寄り添う「伴走型」の相談・支援体制を目指します。それが「名張版ネウボラ」です。



「産み育てるに やさしいまち名張」へ

1ページに登場していただいた青山久美子さんが10月に無事3人目の出産を終え、結愛ちゃんの誕生を家族と喜びました。

青山さんは、「子どもは多いほど楽しい」と話します。地域にとっても子どもが多いと、まちに活気が溢れます。子どもは地域の宝です。しかし、昔と違い核家族が増え、祖父母などからの子育て支援を得にくい家庭が増え、孤立した子育てが増えていきます。同じ地域に住む者として、自分の子や孫と同じように応援しませんか。「赤ちゃんかわいいね」「しんどくない?」こんな優しい声掛けから始めてみてはどうでしょうか。

子育てに関心を持つ少しおせっかいな人が増えたとき「産み育てるにやさしいまち名張」に近づくのではないのでしょうか。

◀ 青山 大介さん・隼斗くん・久美子さん・結愛ちゃん・梨乃ちゃん(左から)